

大河原農業改良普及センターだより



# 麦わらぼうし

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243

宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)

電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138

e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

令和元年東日本台風による被災後、初めてのお米の収穫



凍霜害の被害を受けながらも結実した梨

## 「もしもの事態」への備え

今年の稲作は、全体としては天候に恵まれて順調な生育経過をたどり、国が発表した宮城県の作況指数(9月25日現在)は、101「平年並み」と見込まれています。一方、米をめぐる状況は、少子高齢化や食の嗜好の多様化などを背景に、全国的に年々減少しており、また、新型コロナウイルス感染症のまん延により外食需要も減少したため、中食や外食などの業務用米の割合が多い県産米の消費は、非常に厳しい状況にあります。このことから、今年産米の概算金は、大幅に引き下げられ、米が基幹作物である我が県において、農家経営に大きな影響を及ぼしています。

また、今年は、4月の低温に伴い、なしやりんご等の果樹を中心に凍霜害の被害が発生しました。

ここ数年の気象を思い起こすと、毎年のように全国各地で、豪雨、降雪等による気象災害に見舞われていることから、異常気象の一言で片付けることなく、いつ起きてもおかしくないと考えを改め、「想定外」を「想定内」として備えることが重要になります。

今後は、気象災害や農産物価格の下落等により生じる農家経営上の様々なリスクを想定し、農業保険(収入保険、農業共済)など、「もしもの事態」への備えをこの機会に考えてみてはいかがでしょうか。

普及センターでは、今後とも、地域農業の維持・発展に向けて、生産者の皆様とのコミュニケーションを大切に、一緒に進んで参りたいと考えておりますので、引き続きよろしくお祈いします。

大河原地方振興事務所農業振興部 兼 大河原農業改良普及センター  
農業普及指導専門監 佐藤 正広

## 仙南圏域みやぎの園芸振興について

県は、「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」(R3～R7)を策定し、園芸振興施策を進めています。仙南圏域として立地条件を生かした特色ある園芸産地を目指すため、下表の重点品目を定め推進して参ります。

野菜	いちご、きゅうり、トマト、ねぎ類、たまねぎ、えだまめ、そらまめ、スイートコーン、さやいんげん、つるむささき、ブロッコリー、だいこん、にんじん、さといも、きくいも、えごま、じねんじょ
花き	輪ぎく、スプレーぎく、鉢ものの類・花壇用苗ものの類、小ぎく、トルコギキョウ
果樹	りんご、日本なし、ぶどう、小果樹類、もも、うめ、かき、いちじく、西洋なし
特用林産	しいたけ、たけのこ

### 取組1 機械化一貫体系導入によるたまねぎ産地拡大に向けた取り組み

当管内で現在進められている農地整備事業では、営農計画に高収益作物としてたまねぎの導入を予定している地区が少なくありません。

J Aみやぎ仙南では、たまねぎ部会を設立するとともに、機械化一貫体系の導入に向け、収穫機械等を整備し、たまねぎの生産拡大を図っています。

普及センターでは、関係機関と協力して、収量や品質の改善に向けた生産技術の向上を支援しています。さらに、新たな生産者の掘り起こしのため、「たまねぎ栽培研修会」を開催するとともに、新規作付農地の土づくりなど支援を行ってまいります。



機械定植の様子



機械収穫の様子

### 取組2 J Aみやぎ仙南丸森地区ブロッコリー生産拡大～現地検討会～

J Aみやぎ仙南丸森地区ブロッコリー部会は32戸で12haを作付けしています。令和3年9月16日には現地検討会が開催され、4地区に分け、定植後の管理について指導を行いました。

定植時期に悪天候が続いたことで定植作業が遅れ、病害虫防除などの管理に苦労しましたが、防除が徹底されたことで、10月から順次出荷されています。

品質も良好で、地域のブランドとしての作付け拡大が一層期待されています。

部会員の皆さんは、今後も高品質なブロッコリーの生産に努めたいと張り切っています。



丸森町籠山地区での現地検討会の様子

## 果樹凍霜害の支援について

令和3年4月の低温により、日本なし、りんご、かき、もも、うめ等の各種果樹に凍霜害を受けました。このため、令和3年10月25日に蔵王町ふるさと文化会館で、令和3年度凍霜害等農業気象災害に関するセミナーを開催しました。仙台管区气象台からは「凍霜害など農業気象災害について」と題して、本年発生した降霜の発生メカニズムや農業に役立つ気象情報について、宮城県農業・園芸総合研究所からは防霜対策について、フルタ電気株式会社からは防霜ファンについて、宮城県農業共済組合県南支所からは農業保険について御講演をいただきました。春先の生育が早まっている場合、凍霜害を軽減するには、気象庁から発表される気象情報に留意し、防霜資材を組み合わせた対策が効果的です。

※参考 防霜施設・設備の導入に活用可能な補助事業

事業名	補助対象経費	補助率	要件等
果樹経営支援対策事業（国庫）	防霜施設、防風施設の整備	1/2以内	・果樹産地協議会に参画していること（個人又は生産部会等）。 ・果樹産地協議会が策定する「産地計画」に担い手と定められていること。等
市町村振興総合補助金【園芸特産重点強化整備事業】（県単）	施設整備、機械導入など	1/3以内	・事業終了後3年（ただし、果樹の取組は5年）を経過した日の属する年度を目標年度として具体的な目標計画を設定していること。等

※問い合わせ先 居住する市町の農政担当課または大河原農業改良普及センターまで

## 令和3年度宮城県農林産物品評会・宮城県花き品評会

10月22日から24日まで、せんだい農業園芸センターを会場に宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。管内からは、玄米、野菜、果物及び花きなど、計84点が出品され、9点が入賞しました。今回入賞された方々をご紹介します。受賞おめでとうございます！

### 【水稲（うるち玄米）】

- 2等(公益社団法人みやぎ農業振興公社理事長賞)  
渡邊 長松（村田町）
- 3等 佐藤 民夫（村田町）

### 【果実】

- 1等（農林水産大臣賞）  
山家 一彦（蔵王町，日本なし）
- 1等（農産局長賞）  
菊地 哲夫（白石市，りんご）
- 2等（宮城県園芸協会会長理事賞）  
平間 俊一（蔵王町，日本なし）

### 【花き】

- 金賞（仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合理事長賞）  
はるはなファーム株式会社（丸森町，ビオラ）
- 銀賞 平間 明夫（柴田町，ポットマム）
- 銀賞 佐藤 由喜（川崎町，ビオラ）
- 銀賞 大宮 健（柴田町，トルコギキョウ）※敬称略



日本なし（山家一彦氏）



りんご（菊地哲夫氏）



ビオラ（はるはなファーム株式会社）

## 米価下落に伴う営農相談窓口の設置

令和3年産米の概算金の下落に伴う各種支援策やつなぎ資金の紹介、所得確保に向けた栽培品目選定、低コスト技術の導入等、営農継続に向けた相談に対応いたします。

詳細は、折り込みのチラシをご覧ください。

- ・受付時間：午前8時30分から午後5時15分まで（土日・祝日を除く）
- ・電話番号：0224-53-3289（大河原地方振興事務所農業振興部農業振興班）

## 農業士の紹介

今年、新たに農業士として認定された2名を紹介いたします。



【指導農業士】  
おの よしのり  
**小野 良憲 氏**  
(角田市 水稲)

大規模水稲経営の(有)角田健士農場で代表取締役を務めています。積極的に先進的な技術を導入し、雇用管理を改善する等、地域をリードする農業経営を実践されています。



【指導農業士】  
ながやま めぐみ  
**長山 恵 氏**  
(大河原町 野菜/水稲)

家族経営で水稲や野菜を生産している合同会社あぐりパートナーで、野菜部門を担当しています。次代を担う女性農業者のリーダーとして活躍されています。

## 宮城県農業大学校 令和4年度学生及び研修生募集について

宮城県農業大学校では、優れた農業経営者と農村地域の指導者育成を目標として、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる実践的な教育を行っております。

### ● 2年制農業教育(学生)

#### 【募集人員】

水田経営学部、園芸学部、畜産学部 各15名  
アグリビジネス学部 10名

#### 【試験日程】

##### ○一般入校試験

前期募集期間（当日消印有効）

令和3年11月4日(木)～同年11月19日(金)

試験日時 同年12月3日(金)

後期募集期間（当日消印有効）

令和4年1月14日(金)～同年1月28日(金)

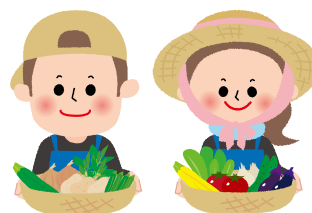
試験日時 同年2月10日(木)

### ● ニューファーマーズカレッジ(研修生)

農業大学校では二年間の農業教育の他に、農業者や新規就農希望者を対象とした各種研修を行っています。

○農業チャレンジクラス：講義と実習が中心

○農業マスタークラス：近い将来、就農を目指す方を対象に、主に野菜に関する知識と技能の習得



### 【問合わせ先】

出願手続き等、詳細については農業大学校ホームページを御覧頂くか、農業大学校教務部学生班[022(383)8138]までお問い合わせください。